

2023～	社会福祉学研究演習Ⅱ	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	2年
		担当教員	大島 巖・三浦 剛・阿部裕二・加藤伸司・高橋誠一・田中治和・田中 尚・都筑光一・萩野寛雄・石附 敬・菅原好秀・竹之内章代	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

自身の専攻する分野の修士論文研究を進めるために必要な知識や研究方法を学ぶ。

■授業の目的

自身の修士論文の作成プロセスを報告し、ゼミ内での議論、指導教員からの指導を受けて、修士論文研究を進める。

■授業の到達目標

- ・自身の修士論文研究のプロセスをまとめ、ゼミ内で報告することができる。「論文指導」と連動して中間報告、第2回中間報告会で報告することができる。
- ・指導教員の指導により、研究を進めることができる。

■授業の概要

- ・指導教員の指導により、また、報告や他の受講生との議論を通じ、修士論文研究を進めていく。
- ・「論文指導」と連動し、参加した中間報告会や第2回中間報告会での議論の要点を確認し、自らの研究に反映させる。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	文献研究の方法を学ぶ	文献研究、先行研究のレビュー	自身の研究分野での文献研究の方法、文献レビューの方法を学び、実施する
2	研究方法について学ぶ①	目的と方法の整合性	研究の目的と方法の整合性について、先行研究を通して自身の研究を確認する
3	研究方法について学ぶ②	文献研究、歴史研究、資料分析	文献の収集とその整理の整理法を学び、自身の研究への適用を検討する
4	研究の方法について学ぶ③	調査研究	調査研究の方法を学び、自身の研究への適用を検討する
5	研究の結果について①	研究結果	図表化をふくめ、データ分析とその結果の表現の方法について学び、自身の研究への適用を検討する
6	研究の結果について②	量的データ分析(その1)	量的データ分析方法および結果のまとめ方、表現について学び、自身の研究への適用を検討する
7	研究の結果について③	量的データ分析(その2)	量的データ分析方法および結果のまとめ方、表現について学び、自身の研究への適用を検討する
8	研究の結果について④	質的研究(その1)	質的データの分析及び結果のまとめ方、表現について学び、自身の研究への適用を検討する
9	研究の結果について⑤	質的研究(その2)	質的データの分析及び結果のまとめ方、表現について学び、自身の研究への適用を検討する
10	考察について①	先行研究との比較	先行研究との比較や論理的な展開方法を学び、自身の研究への適用を検討する
11	考察について②	オリジナリティ、社会福祉学研究	オリジナリティや社会福祉学研究としての意義について学び、自身の研究を確認する
12	考察について③	実践研究としての意義、今後の課題	実践研究としての意義や研究の限界、今後の展開について、自身の研究を確認する

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
13	文献リスト、注などについて	文献リスト、注	文献リスト、注などの表記の方法を確認する
14	研究倫理について	研究倫理	研究倫理に則って研究が行われたか、最終確認をおこなう
15	口述試問への準備	口述試問	口述試問、及び最終報告会への準備を行う

■スクーリング事前学修（予習）(学修時間目安：35時間)

研究演習の中での報告レジュメの作成を事前学修に充てる。報告の内容や回数、提出の時期等は各演習で決定する。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	研究方法について①調査研究（全体）	オンデマンド
2	研究方法について②調査研究（量的研究）	オンデマンド
3	研究方法について③調査研究（質的研究）	オンデマンド
4	学位請求論文中間報告会の予行と担当教員による指導	対面 or 同時双方向
5	研究結果について分析結果のまとめ方	対面 or 同時双方向
6	考察の視点	オンデマンド
7	学位請求論文第2回中間報告会の予行と担当教員による指導	対面 or 同時双方向
8	研究のまとめ口述試問、最終報告会へ向けて	対面 or 同時双方向

■課題（復習）(学修時間目安：20時間)

7回目の演習で報告するレジュメや、検討した結果も併せて作成する。

■提出課題

課題 1	自身の研究の目的と方法について、その整合性を確認し、研究結果と考察の概要を作成する。展開の論理性を確認する。（7回目受講後に提出）
------	---

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



自身の研究、演習の中での報告に照らして、具体的に確認しましょう。
報告会などへの参加で他の研究を検討した結果も併せて考えましょう。

■評価の方法・基準

- ・スクーリング事前学修（予習）(25%)
- ・スクーリングの出席と関与の度合い（50%）
- ・提出課題（25%）

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

※大学から送付される必読図書はありません。

※指導教員から指示されます。